

# 校園長室から



## 学校教育目標

### 共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和8年4月23日 第102号

### 本の愉しみ

先日、先輩の先生と話をしている途中、正門入ってすぐのホワイトボードに「カーペンターズの日」と書かれていたのを見つけて、「今の子どもや若い先生は知らんやろう」と。実際、20代の若者に聞いてみると、「知ってる」とか「よく聴きます」とかの返事。なにやらサブスクで昔の音楽はひょいひょい聴けるとか。

『あの曲聴きたい』とCDショップを何軒もはしごした昔など、今の若い世代には、徒労にしかうつらないのでしょう。でも、見つけた時の感動は味わえないけど(年寄りの反発)。

今日は、「子ども読書」の日。図書館には司書の先生もいて、たくさんの本もあって、たくさん子どもたちが押しかけています。

「今まで読んだ本で一番感動したのは何ですか」と聞かれれば、何と答えるでしょうか。

山岡荘八の「徳川家康」は圧倒的な平和を讃歌する大作でした。M・ガルベスの「百年の孤独」で南米文学の不可思議さと奥深さを知りました。吉川英治の「新・平家物語」は、戦後日本と重ね合わせて読むと儚さを訴える「平家物語」の強烈なメッセージが今でも胸の奥を突き刺したままです。

吉川英治で思い出しのですが、たくさん本が出版されていますが、今はなくなった六興出版社が出していたシリーズものの表紙がかっこいい。「三国志」は何種類も本を持っていますが、去年かっこいい表紙の「三国志」を見つけて思わず買ってしまいました。

GWには、京都や四天王寺で古本市が立ちます。すばり「新・水滸伝」のかっこいい表紙版をゲットしたいと気合を入れています。